

---

# 日本村落研究学会 研究通信

(No.258 2020. 7. 8)

JARS (Japanese Association for Rural Studies)  
Newsletter (No.258, July 8, 2020)

---

(事務局) 山下亜紀子(総務担当)・武田里子(会計担当)・松本貴文 (Web 担当)

連絡先：〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学大学院 人間環境学研究院 山下亜紀子研究室内

TEL: 092-802-5178 E-Mail : akiko-y8@lit.kyushu-u.ac.jp

郵便振替口座：00150-9-387521 日本村落研究学会

ホームページ・アドレス：<http://rural-studies.jp/>

---

- I. 理事会報告 (2020 年度第 3 回理事会、2020 年度第 4 回臨時理事会)
  - II. 第 68 回 (2020 年度) 大会の案内
  - III. 2020 年度第 68 回村研大会 自由報告申込期限等の変更について
  - IV. 日本村落研究学会賞選考委員会報告
  - V. 社会学系コンソーシアム評議員会報告
  - VI. 院生会員の 2020 年度会費免除について
  - VII. 学会費納入のお願い
  - VIII. 新入会員の紹介
  - IX. お知らせ・Announcement
- 

## 【重要なお知らせ】

■11 月 21 日、22 日に明治大学で実施が予定されていた 2020 年度大会 (第 68 回大会) は、オンラインで開催することとなりました。(II. 第 68 回 (2020 年度) 大会の案内 参照)

■本学会の会計年度は 10 月 1 日から 9 月 30 日となっています。2020 年度は 9 月末で終わりますので、会費納入がまだの方はなにとぞよろしくお振込みください。(VII. 学会費納入のお願い 参照)

## I. 理事会報告

### 【2020 年度第 3 回理事会】

日時：2020 年 4 月 18 日 (土) 14 時～

場所：WEB 会議

出席者 (五十音順・敬称略) 秋津元輝、芦田裕介、市田知子、岩間剛城、植田今日子、川田美紀、北島義和、桑原考史、佐久間政広、高野和良、武田里子、築山秀夫、西山末真、原山浩介、福田恵、松本貴文、牧野厚史、村田周祐、矢野晋吾、山下亜紀子

オブザーバー：大森正之 (明治大学政治経済学部：開催校)

## 1. 事務局

会員異動について承認された。

会員数：409名

## 2. 研究・年報編集委員会

1) 本年度大会のテーマセッションは、「日本農村社会の行方(仮題)」として、藤井和佐会員(岡山大学)をコーディネーターとして準備を進めています。報告者は立川雅司(名古屋大学)、小林みずき(信州大学)、北島義和(釧路公立大学)玉野和志(東京都立大学=非会員)です。第1回研究会を2019年12月22(日曜)日に名古屋大学で、第2回研究会を2020年04月11(土曜)日、オンラインで実施しました。

2) 『年報村落社会研究』56集は、タイトルを「人の移動からみた農山漁村-村落研究の新たな地平を目指して-」(仮題)とし、特集論文8本(序章、終章を含む)と研究動向論文3本、大会記事によって、構成します。編者は福田恵(広島大学)、特集論文の執筆者は、奥井亜紗子(京都女子大学)、磯本宏紀(徳島県立博物館)、中道仁美(京都女子大学)、土居洋平(跡見学園女子大学)、佐久間政広(東北学院大学)、原山浩介(国立歴史民俗博物館)及び編者、研究動向論文の執筆者は、伊藤栄晃(埼玉学園大学)、片岡美喜(高崎経済大学)、相川陽一(長野大学)、大会記事の執筆者は、川田美紀(大阪産業大学)です。第68回(2020年度)大会時の完成を予定しております。

(矢野晋吾・築山秀夫)

## 3. 村研ジャーナル編集委員会

『村落社会研究ジャーナル』第52号を刊行しました。今号の編集は、まさしくコロナ自粛のなかでの進行となりました。委員会、出版社ともに制約された条件の下での進行となり、想定していた以上に刊行が遅れることとなりました。遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

このコロナウィルスの感染拡大は、少なからず研究活動にも影響を及ぼしているものと考えられます。図書館へのアクセスや地域調査が従前のように行えない状況があり、さらにオンラインによる講義・会議・研究会等の実施が存外負担になっている会員も多いことと思います。

こうしたことは、論文執筆にも少なからず影響を及ぼすものと思われ、学会誌の刊行頻度が高い学会では、投稿減少の影響が既に出始めていると聞いています。会員の皆様、特に若手の会員には、今こそ、積極的な投稿をお願いしたいと思います。

(原山浩介)

## 4. 国際交流委員会・ARSA 関連

2021年に延期となりました世界農村社会学会大会(IRSA2021)について、同学会のHPトップページ(<https://www.irsa-world.org/>)にて、2020年6月3日付で会長である池上甲一会員により開催情報の更新がなされました。具体的に提示された日程変更は以下の通りです。すでに受理されたアブストラクトやセッションは自動的に2021年大会内容に移し替えられます。追加の応募内容としてはCOVID-19関連の議論が期待されています。

アブストラクトの追加応募開始：2020年6月30日（予定）

大会日程：2021年7月6日～10日

なお、本大会専用のサイト (<https://www.irsa2021.com/congress/present-a-paper/>) には、追加応募を含め、下記のような新日程が記載されていますが、7月4日時点ではまだ応募可能な状態になっていません。

2020年6月30日	アブストラクト（追加）応募開始
2020年12月21日	アブストラクト（追加）応募締め切り
2021年2月22日	報告者（presenters）への通知
2021年5月28日	報告者（speakers）登録締切
2021年6月11日	プログラム確定と配信
2021年7月6日～10日	大会

詳細は、本大会の HP サイト <https://www.irsa2021.com/>、および世界農村社会学会の HP <https://www.irsa-world.org/>にて随時、ご確認ください。

（市田知子）

#### 【2020年度第4回（臨時）理事会】

日時：2020年6月20日（土）14時～

場所：WEB会議

出席者（五十音順・敬称略） 秋津元輝、芦田裕介、市田知子、岩間剛城、川田美紀、北島義和、桑原考史、佐久間政広、高野和良、武田里子、築山秀夫、西山未真、原山浩介、松本貴文、牧野厚史、村田周祐、矢野晋吾、山下亜紀子

欠席者（五十音順・敬称略）植田今日子、福田恵

#### 1. 2020年度大会（第68回大会）について

オンラインでの開催とすることとした。また大会開催日時は予定通りとし、参加費は無料とすることとした。自由報告申し込みの締め切りを9月23日に変更した。

#### 2. 会費減免措置などについて

Covid19問題に伴い、会員の経済状況の問題や研究の継続困難が予想されることからあることから、2020年度においては院生会員の会費を全額免除とすることとした。

## II. 第68回（2020年度）大会の案内

2020年度第68回村研大会は、新型コロナウイルスの状況から、オンライン形式での開催とすることを決定致しました。

6月20日、臨時の理事会を開催し、本件について協議を行いました。会場校となる明治大学から

は、同大学が「自粛要請は出ていないが、感染への注意が必要な状態」の場合、外部に対する施設貸出が不可となる方針が説明され、現状では通常開催が厳しいとの認識が示されました。その上で、他学会の動向などを踏まえ、大会開催自体の休止も含めた様々な可能性について検討を行った結果、今年度に関しては、通常開催を断念し、オンライン形式を取らざるを得ないという判断となりました。

議論の中では特に、質疑応答等も含めて学会として議論の質を保つことが出来るのかという論点などが話し合われましたが、「研究を止めない」ことを大前提に、それらの課題については今後、研究委員会を軸とした特別チームを編成し、実施の具体的な方法等を検討していくことになりました。

なお、日程については予定通り、自由報告を11月21日、テーマセッションを22日に実施します。

また、今回の参加費は無料とすることといたします。

会員の皆様には、例年とは異なった形でご協力を賜ることになるかと思いますが、どうぞ宜しくご理解ご協力の程、お願い申し上げます。

(研究委員会・矢野晋吾)

### Ⅲ. 2020年度第68回村研大会 自由報告申込期限等の変更について

2020年度村研大会はオンライン形式で実施致します。これに伴いまして、自由報告に関するスケジュールが変更になります。

大会報告エントリー・報告要旨提出締切：2020年9月23日(水曜)日厳守

自由報告を希望される方は、下記の要領で申請して下さい。今回は報告要旨も同時に提出する形となります。締切日以降の申し出は受け付けられません。

提出事項：自由報告のタイトル・氏名・所属、報告要旨(1200字程度)

送付先：事務局内研究委員会宛に(メール、あるいは郵便にて)提出

(事務局のメールアドレス、住所は通信の1頁をご覧ください)。

学会からの受理連絡をもって受付完了とします。

### Ⅳ. 日本村落研究学会賞選考委員会報告

2020年2月25日発行「研究通信 No. 257」において、2020年度「日本村落研究学会研究奨励賞」の推薦を会員の皆様に2020年5月末〆切りでお願いいたしました。残念ながら、今回はどなたからも推薦いただけませんでした。したがって、今年度は学会賞の授与は実施されませんでした。来年度も、学会賞推薦の募集を同様に予定しておりますので、よろしくお願いたします。

(佐久間政広)

### Ⅴ. 社会学系コンソーシアム評議員会報告

第12回評議員会にて当学会から秋津が理事に選出されたため、今回は理事会報告を適宜お伝えします。2020年3月26日開催の理事会議題は以下のとおり。

#### 1. 理事・監事選挙管理方式について

2. 決算報告の運用、会計年度の見直しの必要性について

3. 今期2年間のシンポジウムの開催について

第3議題について、毎年1月に開催されるシンポジウムの暫定テーマが下記のように決まりました。

2020年度(2021年1月)「メディア学の使命」

(主催:マス・コミュニケーション学会)

2021年度(2022年1月)「フィールドワークのアクチュアリティ——社会学の立場から」(主催:関西社会学会)

(秋津元輝)

## VI. 院生会員の2020年度会費免除について

Covid19の問題を受け、日本村落研究学会理事会は、院生会員の2020年度会費の全額免除を決定しました。なお既に2020年度分を振り込まれた院生会員の方の会費は、来年度の会費として処理させていただきます。

(事務局)

## VII. 学会費納入のお願い

2020年度(会計年度:2019年10月1日~2020年9月30日)の学会費の納入をお願いいたします。今年度より学会費は原則としてSMOOSY(スモージー)システム上で行っていただくこととし、SMOOSY(スモージー)システムの「マイページ」に表示される振込口座にお振込みいただく方式に変わりました。請求書と領収書は「マイページ」からダウンロードできます。所属先の会計手続きなどにご利用ください。「郵便振替口座」00150-9-387521からのお振込みも可能です。

なお所属機関から学会費をお振込みいただく際は、郵貯口座/バンクチェック口座ともに振込者のお名前は機関名ではなく会員名にしてください。

会費を3年以上滞納した場合、会員資格を失います。

また、会費納入会員にのみジャーナルをお送りすることになっておりますので、既に発行された『村落社会研究ジャーナル52号』は、2019年度までの会費を納入された方にお送りしました。

(事務局)

## VIII. 新入会員の紹介

省略

## IX. お知らせ・Announcement

1) R2 会計年度「むら研究会」基金若手研究活動補助の公募

「むら研究会」基金若手研究活動補助の公募を開始いたしますのでお知らせいたします。ただし

今年度は学会大会がオンライン開催されることを受け、「自由研究活動」のみの公募といたします。  
詳細は、学会サイト内「若手会員支援」ページ (<http://rural-studies.jp/wakate.html>) をご参照  
ください。

越智正樹 (琉球大学) [mochi@tm.u-ryukyu.ac.jp](mailto:mochi@tm.u-ryukyu.ac.jp) (「むら研究会」基金管理運営委員会)